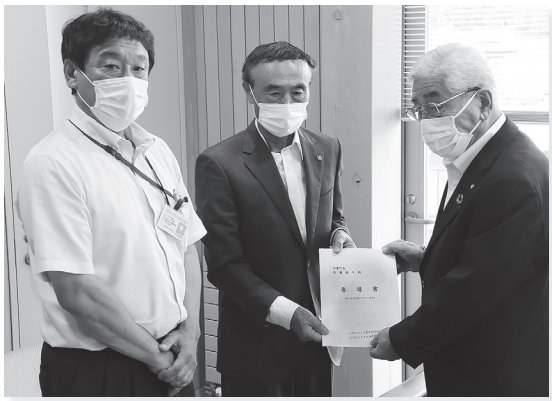
米の需給調整に関する要請
持続可能な水田農業の維持・発展に向け

このたび、山形おきたま農業協同組合（若林英毅代表理事組合長）と、山形おきたま農協農政対策本部（丸川正博白鷹地区本部長）から佐藤町長に対し、持続可能な水田農業の維持・発展に向けた要請書が提出されました。

コロナ禍によるコメの需要減等に対し、政府備蓄米の運用改善等のあらゆる政策を総動員した市場隔離の実施や出来秋に向けた出口対策を強化・拡充することについて国への働きかけを要請する内容になっています。



丸川農政対白鷹地区本部長（中央）、渡部吉和 JA 白鷹経済支店長（左）より佐藤町長（右）に要請書が手渡されました。

白鷹山関の活躍を願い
「白い鷹」と「紅花」が施された化粧まわしが完成

白鷹山関の活躍を期待し、町では化粧まわしを制作しました。８月 26 日には完成を記念し、お披露目式が行われました。今回制作した化粧まわしの図柄には、町の象徴である「白い鷹」と「紅花」が施されており、特に紅花部分には生産量日本一を誇る町内産の紅花を染料とした生糸が使われており、鮮やかに描かれています。

お披露目式に出席した白鷹山関の母、齋藤妙子さんからは、「先場所負傷してしまったが、９月場所にむけ稽古やトレーニングを積んでいる、ご声援よろしくお願いします。」と今後の活躍に期待しながら、感謝の言葉が述べられました。

完成した化粧まわしを眺める
母・妙子さん（左）と佐藤町長（右）。

おきたま森の感謝祭 2021
白鷹町と飯豊町の児童による植樹活動を実施

「おきたま森の感謝祭 2021」が８月 28 日、鮎貝小学校付近の教育の森で開催されました。鮎貝小学校５・６年生や緑の少年団に加入している東根小学校、添川小学校（飯豊町）の児童、約 150 人が参加しました。これまで１年間、児童自ら大事に育ててきたカラマツやスギの苗木を１本１本丁寧に植樹しました。

参加した児童からは、「苗木を枯らさないようにこまめに水分をやりながら、この１年間大事に育ててきたので、これから大きく成長して欲しい」などの声が聞かれました。

自ら育てた苗木を、丁寧に植樹しています。

GIGAスクール構想 保護者が学ぶタブレット端末研修会

今年度よりGIGAスクール構想にて整備した１人１台端末を活用した学習が４月からスタートしています。７月20日には、蚕桑小学校PTA研修会において児童たちが使用しているタブレットを、実際に操作しながら学ぶ、保護者向け研修会が開催されました。

普段、我が子が使用するタブレット内のアプリで、各教科のドリル学習や遠隔会議などを体験しました。参加した保護者からは「子どもが楽しそうにしているので前から興味があった、体験出来て良かった」などの声が聞かれました。

タブレット端末を活用し、更なる学習の効率化が期待されます。

担任からの操作説明後、いざ実践です。

新型コロナウイルス感染症の早期終息を祈願し 地元有志による「茅の輪」制作

新型コロナウイルスをはじめとする疾病退散の願いを込めて、８月11日に荒砥新町地区の老人クラブ「新町笑友会」の有志の方々が茅の輪を制作し、金鐘寺内にある「秋葉三尺坊大権現」に設置しました。

同寺の菅野住職よりご祈祷をしていただいた後に、参加者全員でくぐり初めを行いました。また、災いを祓い清める場として、地域やお盆のお墓参りに訪れた方々などにくぐっていただきました。少しでも早い感染症の終息を祈ります。

菅野住職によるご祈祷の様子。

僕の夏休み 自由研究で山形県内35市町村を巡る

荒砥小学校３年生の中嶋悠喜（ゆうき）くんは、この夏休み期間中、自由研究と題し県内35市町村を巡り、各自治体の特色や自慢を１冊の本にまとめあげました。

コロナ禍で県外への移動が制限される中、思い切って県内すべての市や町を回ってみようとお母さんのススメで実現したもので、小国町からスタートし、置賜、庄内、最上、村山と巡りました。そして8月16日、最終地点の町役場を訪れ、旅の中で出会った人や思い出をノートや写真で振り返りながら、満面の笑みで佐藤町長に話してくれました。

Ｔシャツには各市町村長からの
激励のメッセージが記入されています。